化合物命名法　—IUPAC 勧告に準拠—

第 1 版 第 1 刷　正 誤 表（2011.7.25）

ページ	行・表番号	誤	正
7	Ⅱ-A2 の↓13	(F, C, Br, I, At)	(F, Cl, Br, I, At)
20	↓14	trioxydosulfate	trioxidosulfate
23	↓12	$HClO^4$	$HClO_4$
23	↓14	chloric aicd	chloric acid
39	Ⅱ-H1 の↓14	carborane カルボラン	carbaborane カルバボランまたは carborane カルボラン
55	表 Ⅲ-3	ICUAC 1993 規則	IUPAC 1993 規則
63 64 68 154	表 Ⅲ-6，右段 Ⅱ-C2.1.3 の↓21 Ⅲ-C6.1.2 の↓1 左段の↓23	カルバルデヒド	カルボアルデヒド*
64	↓26	3-ピリジンカルバルデヒド	3-ピリジンカルボアルデヒド*
66	Ⅲ-C3 の↓7	α,α′-dichloro-*o*-xylene α,α′-ジクロロ-*o*-キシレン	α,α′-dichloro-*o*-xylene α,α′-ジクロロ-*o*-キシレン (ギリシャ文字を立体にする)
68	Ⅲ-C6.1.2 の↓3	1,2-ナフタレンジカルバルデヒド	1,2-ナフタレンジカルボアルデヒド*
74	Ⅲ-C7.6，↓12	acetic benzoic anyhydride	acetic benzoic anhydride
89	Ⅲ-C17.6，↑2	2*H*-pyrane-6-carboxylic acid	2*H*-pyran-6-carboxylic acid
92	Ⅲ-C19.1.3 の↓6	4′-スルホナトアゾベン-4-カルボン酸二ナトリウム	4′-スルホナトアゾベンゼン-4-カルボン酸二ナトリウム
107	1.1.1 の構造式	1 段目左（1）pentalene 構造式中の位置番号 8 を 4 に訂正.	
110	2 段目の構造式	(14a) isothiazole 構造式を訂正．1 位の O を S に訂正する.	
116	1.1.8 ↓7 の下の構造式	2 段目左 imidazole 構造式中の位置番号 3 の N の右肩についている 1 を削除.	
135	右段最下行	1-フェニルメチル	1-フェニルエチル
141	5.5 の脚注 b)	contant	constant
143	左段の↓1	α	α（ギリシャ文字を立体にする）
144	右段の↓3	chloric aicd	chloric acid
150	中央段の↓28	1,3-thiacole は 1,3-thiazole の誤り．したがって，3 行下の 1,3-thiazole 110 は 1,3-thiazole 109，110 に修正する.	
158	中央段の↑19	1-フェニルメチル	1-フェニルエチル

＊　**カルボアルデヒドとカルバルデヒドについて**：アルデヒドの命名には，接尾語として -al アールを付ける方式と，-carbaldehyde カルバルデヒドを付ける方式の二つがあり，本書でもそのように記している．問題は後者の接尾語の字訳（原語の発音とは無関係にカタカナ書きに置き換える）であるが，従来の“化合物命名法”ではカルバルデヒドとしてきた．しかし，炭素を特性基に含む接尾語は，carboxylic acid カルボン酸，carboxamide カルボキサミド，carbohydrazide カルボヒドラジド，carbonitrile カルボニトリルの例でわかるように，英語のつづりはすべて carbo という部分を含んでいることから，アルデヒドを表す接尾語も本来 carbo＋aldehyde となるものが，母音が重なるために o が脱落して carbaldehyde となったと解釈するのが妥当と思われる．このような場合の字訳は，本書の第 I 章総則にある“化合物名字訳基準”により，脱落している o を補ってカルボアルデヒドとするのが正しい．したがって，本書で採用しているカルバルデヒドは，今後カルボアルデヒドに改めることにする.